



目次

- 特集 1 : 震災時の安全を守るために
- 特集 2 : 地下式消火栓のご紹介

青森地域広域事務組合消防本部（長島二丁目）

□庶務課017-775-0852 □予防課017-775-0853 □警防課017-775-0854 □通信指令課017-775-0851
□中央消防署（長島二丁目）017-775-0855 □東消防署（栄町一丁目）017-741-0613
□浪岡消防署（浪岡字稲村）0172-62-3119 □平内消防署（平内町沼館）017-755-3119
※災害情報は災害情報テレホンサービス050-5536-4558 救急病院紹介は017-722-2211

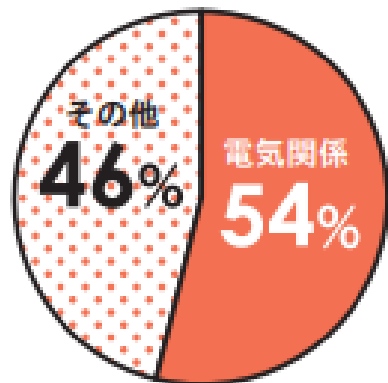
ご存じですか？

地震による火災の過半数は、**電気が原因**です。

震災時の安全を守るために

東日本大震災における本震による火災全111件のうち、原因が特定されたものが108件。そのうち過半数が電気関係の出火でした。

地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災のことです。



東日本大震災における
火災発生原因

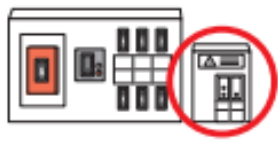
電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

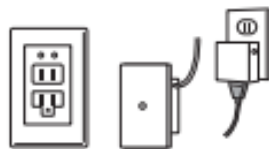
主な感電ブレーカーの種類



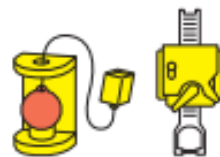
分電盤タイプ(内蔵型)



分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ

おまけのお話し

分電盤にも寿命があり、13年を目安に交換することが推奨されています。交換推奨年数を超えて使用されている分電盤には常に火災のリスクがあります。

また、感震ブレーカーが正常に作動するためには、漏電ブレーカーが正常に作動している必要があります。定期的に漏電ブレーカーの点検も行いましょう。

地下式消火栓のご紹介

火災の時に使用する消火栓ですが、種類があるのをご存じですか？青森消防本部管内には、皆さんがよく目にする消火栓（地上式）の他に地下に埋設されている消火栓（地下式）があります。

消火栓の種類

○地上式消火栓

地上に設置されているもので、消火栓のイメージと言えばこれだと思います。



○地下式消火栓

地下に埋設されていて、マンホールに似ているものや、四角い蓋のものがあり消火栓と書かれています。（実は、積雪の無い地域ではこちらが主流です。）



使い方

使い方は、地上式のものと変わらず簡単で、

- ①蓋を開ける
- ②ホースを接続する
- ③コックを開ける

これで水が出てくる仕組みです！

（巷では1.2.3消火栓と呼ばれてます…）



青森消防からのお知らせ



地下式消火栓が設置されている地区がありますが、冬期間は積雪状況に応じて除雪を行い、日々訓練に励み、有事の際、迅速に対応できるよう備えています。

担当：警防課警防チーム TEL 017-775-0854

